

高退教通信

- 2015年 4月号(2015・4・1発行) -

鹿児島県高等学校退職教職員会
事務局 県高教組内
鹿児島市山下町4-18 《099-225-1414》
発行責任者 長井 玄龍
編集責任者 永田 琢朗

2015年 鹿児島県議会議員選挙 4月12日（日）投開票

霧島市・湧水町選挙区

高教組委員長 社会民主党公認

「向井たかまろ」 必勝が

安倍の暴走を止めます
沖縄の辺野古基地建設反対と連帯します
川内原発の再稼働を許しません

昨年11月県議会で、川内原発再稼働容認の決議が、圧倒的な議席を占める自民党県議によってなされ無念の思いをしました。

「向井」さんは、財務・財政のスペシャリストであり、当選したら、県教育行財政のチェックと要求実現の大きな足掛かりになります。立候補したからには何が何でも勝たねばなりません。

この選挙区は定員4人に対して3人の自民党に元国分市長が立候補しています。大変厳しい闘いですが、4人のうち1人は野党を、と訴えたい。それを実現させる潜在力がこの選挙区にあると思います。



今回の県議選挙で反戦・平和、護憲、脱原発の議員を増やし、県民のいのちと暮らし、国土を守る県議会議員を増やすなければなりません。

皆様のご支持をよろしくお願い申し上げます。
皆様の知人・ご友人などでご支持いただける方に声掛けをお願いします。

地方から安倍独断政権にノーを!!

川内原発再稼働に反対し、県民のいのちと暮らしを守ります。

福司山 宣介 (社民党) 鹿児島市・郡区 1期
遠嶋 春日児 (無所属) 薩摩川内市区 1期

高退教は支持・応援しています。よろしくお願いします。

霧島市・湧水町区候補 向井 尊磨さん（高教組・社民党公認）

みんなが元気！ 向井も元気！！ 遅れを取り戻す向井たかまろさん



国分山形屋近くで朝のあいさつ(写真)

いよいよ県議選が4月3日（金）に告示を迎えます。投票日は4月12日（日）です。

年明けの立候補決意表明から大変厳しい体制で選挙

活動を進めています。向井さんは各組織の退職者や紹介者の各家々を必死に駆け巡っています。

でも現実は、知名度が足りない、残り時間は少ない、カードは少ない、スタッフは足りない。一人何役もこなしながら行動・準備をしている状態です。

全戸チラシ配布

3月7日（土）、全戸チラシ配布の第一段、湧水・牧園・横川・溝辺・霧島地区の240袋準備しました。高退教はもちろん、各組合員など多数が参加してくださいり、ほぼ完配布できました。特に自治労の仲間の皆さんとのとりくみには感服しました。

第二弾は、22日（日）の9時、隼人教育会館に集合してミニ集会後、隼人・国分の市街

地約3万5千枚を配布しました。

3団体統一行動

毎土・日、10時からは高退教・高教組・社民党的3団体で、チラシ配布や点検行動をとりこんでいます。29日（日）まで続けます。土日の10時、告示前まで隼人教育会館に集合し、行動します。

人に優しい県政で！ 向井は優しい顔で！！

新人でとにかく無名。毎朝のあいさつは「向井」を売り込むチャンスです。選挙区の全域を2台の街宣車で走り回って「向井」を売り込んでいます。ここでも高退教をはじめとした退職者会・社民党員の活躍が目立ちます。隼人町の南域を「地元」と位置づけ、街宣を強化しています。

各自治会の総会時期になっています。ここにもあいさつ体制を準備しています。また、紹介された家々を丁寧に回りながら、街頭での演説もこなしてきています。

賑やかな後援会事務所

隼人イオンの正面にある事務所はとても利便がいい場所です。スタッフの人手は足りないものの、やや狭い後援会事務所は活気づいています。鹿屋や指宿から駆け付けてくださる党员や支援者、向井さんの元同僚や壽子夫人の教え子の皆さんたち。私は総選挙でお世話になった方々に感謝しながら、事務局長として皆さんにお願いをしているところです。元気な高退教の皆さんと会えること、そして「向井」県議の誕生を期待しています。

(文責 野呂正和)

鹿児島市・郡区候補 福司山 宣介さん（社民党公認）

福司山宣介さんは、1958年5月5日、徳之島の伊仙町生まれの56歳。鹿児島市議会議員を4期15年（1996年～2011年）勤めた後、2011年の鹿児島県議会議員選挙に社民党公認で立候補して当選を果たし、現在1期4年が経過するところです。議員生活に入る前は、新盛辰雄元衆議院議員の秘書も経験しております。県議としては1期4年ですが、極めて経験豊かな政治家であり、課題解決に真摯にとりくんでいます。

しかし、今回の県議選では投票日まであとわずかに迫りましたが、盛り上がりに欠けており、「福司山宣介」を支持する労働組合の組合員数も減少する中、選挙活動も停滞気味であり、各退職者組織に頼らざるを得ない状況にあります。ぜひとも高退教員及び家族の皆様方の温かいご支援をお願いするところです。

県議選に臨むにあたって、福司山さんは基本政策として「暮らしを支え、地域に元気をとりもどす県政を」そして「憲法理念の花開く社会の実現につとめます」を掲げ、その実現に向

て『福司山宣介の約束』を7項目発表しています。高退教のめざす社会づくりに特に関連する項目を3点掲載します。

- ① のびのびと子どもが育つまちづくり（子どもの貧困への支援、ひとり親家庭・子ども医療費助成の現物給付化。障がいを持つ子どもも共に学ぶ総合教育、公平な学習機会を保障する教育改革をめざします。）
- ② 原発に頼らない社会の実現（太陽光や太陽熱・水力・風力・バイオマス・地熱発電など再生可能エネルギーの普及とスマートシティの構築、省エネルギー政策の転換による脱原発社会の実現をめざします。）
- ③ 特性を生かした真の離島振興（不利な条件の航路・航空路の運賃や物資の輸送費用の低廉化、保健医療供給体制の強化、就学機会の確保と教育・高等教育・特別支援教育の充実）

残りの4つの約束は、④安心と希望がもてるくらしと雇用 ⑤人にやさしい交通政策 ⑥災害に強いまちづくり ⑦食・みどり・水・環境をまもる、です。

薩摩川内市區候補 遠嶋 春日児さん（鹿教組出身・無所属）

遠嶋春日児さんは1954年4月15日、大分県安心院町の生まれで60歳。1981年から学校事務職員として県内4小中学校に勤務後、2007年に県議会議員選挙に立候補し、この時は惜しくも落選しましたが、4年後の2011年に初当選し、現在に至っています。

2011年の選挙は福島原発事故直後でもあり、自民党現職3人に対し、脱原発を訴え3番目の議席を確保できましたが、今回は伊藤知事・県議会・岩切薩摩川内市長・薩摩川内市議会とも川内原発再稼働を認めた後でもあり、脱原発が争点になり切れておらず、支持者拡大も厳しい状況です。薩摩川内市在住の高退教員の皆さん方の支援を強く訴えます。

県議選に臨むにあたって、遠嶋さんは、「ずっと住みたい街へ 脱原発社会の早期実現を！格差をなくし くらしを守る 生活を破壊する消費税反対！」を基本政策として掲げるとともに、

- ① いのちを守る！（川内原発再稼働反対・3号機増設阻止 産廃場整備地から水と命を守る）
 - ② 福祉の充実！（安心して暮らせる年金制度 高齢者施設の充実・交通手段の整備）
 - ③ 格差をなくす！（地域資源を生かした産業育成 雇用創出・子育て支援）
 - ④ 豊かな教育！（30人以下学級の推進 教材費や給食費の保護者負担軽減）
- 以上4点を重点政策として挙げています。

日退教九プロ第24回研修会・第37回定期総会報告

2015年3月10日（火）・11日（水）教育文化会館（長崎市）

日退教九プロ研修会・総会に参加して

橋野 裕明（指宿市）

日退教恒例の九州ブロック研修会と総会が長崎で3月10日、11日と行われた。長崎に近づく列車の窓から粉雪が舞うのが見え、長崎市内は北風が強く、3月にしては大変に寒い中を、鹿児島高退教から長井会長、レポーターの上山陸三先生、橋野の3人で会場に向かった。全体で100人ばかりの集会。

問題提起に、長崎東高校の平和大使が長崎からヨーロッパまでの行動を語った。「高校生平和大使」は長崎の高校生が始めた運動で、高校生たちが署名・募金を集め、毎年国連欧州本部に高校生を派遣し署名を届けている。「微力ではあるが、無力ではない」という言葉には何度も聞いても刺激を受け、これからに明るさを灯してもらう。

二人目の山川剛さん（元長崎県教組文化部長）は活水女学院に必修教科・「平和学」を導入、実践をされた方だ。テーマは「女性と戦争」。冒頭、国民歌、「緑の山河」は「君が代」に代わるものとしての位置にあり、歌詞の歌い出しの『たたかいこえて』の『たたかい』は『戦争』であると言われ、目から鱗であった。

そして女性の社会進出が平和を作る力になるとデータを示しながら説かれた。そのパーセンテージがヨーロッパなどに比べて日本は低いという。女性国会議員の割合1位ルワンダ63%、

日本142か国中114位9.5%。男女平等度ランク1位アイスランド、日本104位。

そして、ジャネット・ランキン、バーバラ・リーの二人のアメリカ人女性議員が、前者は対日戦争に、そして後者はイラク戦争にたった一人、反対票を投じたという。理由は非常に簡単、人を殺す戦争は肯定できないからだと言う。

また米国・ロシア・英国・フランス・中国は核保有国、国連常任理事国、武器輸出国であり、女性の国会議員が少なく、男女の格差も大きい国もあるという。

上山陸三さんは、大隅における仲間たちとの30年の平和運動の実践を熱く語り、若い仲間にどう引き継ぐかを訴え、喝采を浴びた。また、沖縄の安次嶺さんは辺野古における国を相手にした日々、刻々の鬨いのナマの声、厳しさを沖縄タイムス、琉球新報のコピーを使って届けてくれた。その鬨いを九プロも共有することを決議し、必然的に全国大会への代表になった。

夜の交流会は長崎市職員の有志による二胡の演奏に始まり、交流に入った。左隣は福岡、行橋の方で蝶々を求めてあちこち回っておられた。大隅半島の太平洋側にも何回も足を延ばしており話が弾んだ。右隣は佐賀県退教協の方で組織の維持拡大の難しさを語った。九州の仲間の思い、実践に学んだ。

2016年度 日退教九プロ第26回研修会・第39回定期総会・鹿児島大会

2015年度の本集会は熊本県、2016年3月15・16日（水・木）の日程で開催される予定。

2016年度は7年ぶりに鹿児島での開催になります。2月2日に第1回の実行委員会を両退教でもち、2017年3月7日（火）・8日（水）「ウ

エルビューカゴしま」で開催する日程を決めました。実施するに当たっては多くの運営委員会を必要とします。会員の皆さまのご協力を、早いですが、今からお願ひします。

第1分科会（組織の強化拡大）参加報告

長井 玄龍

九ブロ各県いずれの県退教・高退教も組織の強化・拡大をどう進めていくかが、共通の大きな課題です。鹿児島高退教はとりあえず組合員の退職者は高退教に加入してもらい、あと会費の振込用紙を送り会費を納入してもらうことになっているので、拡大の苦労は少ないです。日退教の会員は約7万人、退女教2万人。九ブロ

日退教約1万8千人。退女教は日退教九ブロに加盟していないので不明。現職組合員の退職が少なくなってくれれば、退職教職員会の会員も減ってくるのだから、運命共同体です。厳しい状況ですが現職組合員の組織拡大を期待したいものです。

第2分科会報告（平和・人権・環境）参加報告

上山 陸三（鹿屋市）

私は3月10日から11日まで長崎市で開催された日退教九ブロ第24回研修会へ83歳の老骨に鞭打ち一と言っても後輩仲間の橋野裕明・長井玄龍両氏をガードマンにして参加しました。大変勉強させてもらい有意義だったことに感謝しています。

橋野さんと第2分科会（平和・人権・民主主義・環境）に参加しましたので、同分科会の状況を紙面の都合で簡単に報告致します。

4県代表から上記テーマに関する貴重な実践報告がなされ、その後質疑・応答・討論が行われ、熱気に充ちた研修会となり、約2時間半があつという間に過ぎました。

私も鹿高退教を代表し「反戦・反核・平和運動30年」の実践活動を概略報告し一定の評価を受けましたが、4つのレポートの中で一番論議が集中したのは、沖縄の辺野古新基地建設反対・阻止行動に関わる報告「沖縄県民の尊厳を取り戻す県知事選の闘い」でした。

周知の通り2014年11月の県知事選挙において、辺野古への米軍基地建設を承認した仲井眞前知事に対し、反対を表明して立候補した翁長雄志前那覇市長が10万票以上の大差で勝利し、県民の意思が判然と示されました。

それにも拘わらず、安倍政権は前知

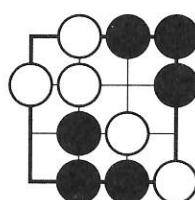
事の承認を盾に、日米合意に従い辺野古新基地建設へ向けた工事を強行しています。万一、同基地が現実のものとなるようなことがあれば、「沖縄は永久に軍事基地化される」という危機意識が県民の心を捕え、県全土から大勢の人が集まり、反対・阻止行動に起ち上がっています。

沖縄の代表は次のように叫び、訴えました。「この辺野古新基地建設反対・阻止行動は、安倍政権が日本を『戦争のできる国』へ向け暴走している現状を食い止める象徴的な運動とみなしと全国的な運動に発展させるべきではないでしょうか。沖縄を再び戦場にさせてはなりません。本土の人々も沖縄に深い関心を示して下さり、この闘争を我が事として応援し、できれば参加して欲しいです」

私たち出會者は全員、この訴えに共鳴・賛同し、日退教全国研修会へ沖縄代表を送ることに決定しました。

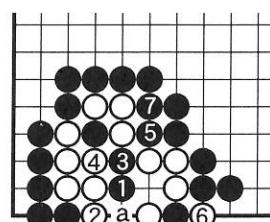
第3回（張栩の）四路の碁

注：*黒先で双方最善最強を尽くす。
*コミなしで、コウはあり。
*黑白どちらが何目勝ちですか？



第2回解答

初手黒一のツケが急所で
白2に次の黒3が肝要。



安倍晋三「教育再生」改革の現在

～超右翼勢力に振り回される現場～

安倍晋三首相は2012年12月衆議院選挙で大勝して第二次内閣をつくるとき、「教育再生実行会議」という首相の私的諮問会議を発足させた。その第一回会合のあいさつでこう述べている。

教育再生は、経済再生と並ぶ日本国の中止課題であり、「強い日本」を取り戻すためには、日本の将来を担っていく子どもたちの教育を再生することが不可欠。

①教育再生の最終的な大目標は、世界トップレベルの学力と規範意識を身につける機会を保障すること。第1次安倍内閣においては、約60年ぶりに教育基本法を改正し、②教育の目標として、豊かな情操と道徳心を培うこと。伝統と文化を尊重し我が国と郷土を愛する態度を養うことなどを明確にした。

しかしながら③その後の教育現場は、残念ながら改正教育基本法の理念が実現したと言える状況はない。

第1回「教育再生実効会議」

(議事録 2013.1.24)

教育の目標は、エリート輩出と上からの命令にきっちり従う規範意識を身につけた労働者づくりである。両者に必要な教育内容は、「豊かな情操と道徳心」「伝統と文化を尊重」「我が国と郷土を愛する態度」である。

第一次内閣で教育基本法をそのように「改正」したのに、民主党のおかげで実現していない。それを今から進めよう、と言うのである。そして大目標は、取り戻すべき「強いニッポン」なのだと言う。

きわめて単純明快。しかし待てよ。「教育」って、そんなに単純でいいの？子どもたちはそんな単純に割り切れる「生き物」ではないぞ、と長年苦労してきた高退教の皆さんお分かりだろう。「教員たる自分が力不足で」とは、教

小原 健 (姶良市)

員自身の謙虚さであるとしても、教育理念や方針を、そんな単純明快には考えられなかつたはず。

子どもは常に一人前の人間として、もがき生きようとしている。子どもたちの動きに瞬時に判断して反応することが教員には求められていた。だから教員は緊張の連続で、時間的余裕がなくなると心的疾患におちいる人も出てくる。高退教の皆さんは、多かれ少なかれ差はあるものの、現職中の日々の悩みは尽きなかつたはずである。

安倍晋三は、しかしきっぱりと言い切る。

何の憂いもなく。そしてその内容を作ってくれる人物を自由に（我が勝手に）選んで託したのが「教育再生実行会議」である。

八木 秀次 (やぎ ひでつぐ)

高崎経済大学から現在は麗澤大学教授。憲法学・法思想史となっているが。産経新聞正論メンバ



ー（論説委員ということ）。従来の各社の教科書を、「自虐史観」と批判してきた「新しい歴史教科書をつくる会」の第3代会長だったが、内紛から「つくる会」を飛び出し、「日本教育再生機構」理事長に就任。また、2007年発足の「教科書改善の会」とも兼任し「育鵬社」から中学校教科書「新しい日本の歴史」「新しいみんなの公民」を執筆出版している。

専門は憲法学・法思想史だと自称しているが、日本国憲法は「マルクス主義思想と社会契約論を基軸としている」と批判。「女系天皇を認めよう」論がわき起こったころ、八木は男系男子による皇位継承を主張。「天皇の天皇たるゆえんは、神武天皇の血を今日に至るまで受け継い

でいるということである。Y染色体（Y1）は、男系でなければ継承できない（『Voice』2004.9月号）と非科学的なことをぬけぬけと主張。それでも安倍晋三のお気に入りで、発言力は増すばかり。天皇誕生日の「お言葉」の「日本は、平和と民主主義を、守るべき大切なものとして、日本国憲法を作り、さまざまな改革を行ってきた」に対して「両陛下のご発言が、安倍内閣が進めようとしている憲法改正への懸念の表明のように国民に受け止められかねない」と批判した（『正論』2014.5月号）。これには、「八木は何様のつもりか」と、ネットウヨ仲間からも攻められている。53歳。

曾野 綾子（その あやこ）



一応、作家。沖縄戦における日本軍の集団自決強要はなかったと論陣を張り、その結果、文科省は高校歴史教科書の検定でこれまで事

実とされてきたことが裁判係争中（大江健三郎『沖縄ノート』は事実ではないとして当時の軍指揮官が提訴。最高裁まで行って請求棄却）であることを理由として、強制記述を削除させた。判決の中で、曾野綾子の「ある神話の背景」には取材の偏りがあると指摘されている（大阪地裁）。

今年2月11日産経新聞コラムで、日本の労働人口が減少している問題について触れ、移民を受け入れた上で、人種で分けて居住させるべきだ、と主張し、アパルトヘイト（人種隔離政策）の勧めだと国際的に批判された。朝日新聞の取材に対して、「私が安倍総理のアドバイザーであったことなど一度もありません。（中略）私はアパルトヘイトを称揚したことなどありませんが『チャイナタウン』や『リトル東京』の存在はいいものでしょう」と反論している。しかし、この「教育再生実行会議」の一員である

ことが「アドバイザー」であるし、「チャイナタウン」と強制隔離とはまったく異なる次元の話だろう。2013.10月で委員を辞めている。83歳。

提言の最初は「いじめ問題」

「教育再生実行会議」の第一次提言は当時マスコミを賑わした大津市でのいじめ自殺問題をきっかけにしていた。ところがこの提言を3~4行読むと、

先の安倍内閣において改正された教育基本法の理念が十分に実現しておらず、国の未来を担う子どもたちの中で陰湿ないじめが相次ぎ、世界に伍していくべき学力の低下などが危惧される中、教育の再生は我が国の最重要課題となっています。

いじめ問題を心配していたのではなかった。さらに14行後、「提言1」に「道徳を新たな枠組みによって教科化し、人間性に迫る教育を行う」と出される。学校の置かれている状況、子どもたちの生活状態など、何らの分析も数字もなく、突然に、しかも第1に出てくる。

大津市立皇子山中学校は、当時文科省指定の「道徳教育研究指定校2年目」であった。結果から見れば、この道徳研究指定制度こそが「いじめ自死」を引き起こしたと見える。その分析にも反省にも一言も触れることなく、この結論と提言である。

高校教科書選定の強制が広がっている

実教出版「高校日本史」の国旗国歌法についての側注が気に入らないとして、2012年に東京都教育委員会が、採択希望した17校に別の教科書を選ぶように強要し実教出版はゼロになった。

以後、去年までに埼玉県、神奈川県、川崎市、横浜市で採用ゼロ、大阪府で条件付となっている。文科省の検定は合格しているのに。

これでも教育長を辞めさせられない

大阪府の中原徹教育長。朝日新聞の今年3月